

たじみん昼話 109

私たちは、身近なものほど見ているようで見ていない2

銀杏の葉脈は書けたかな。正解は、これだ。

想像していた植物の葉のすじすじとは、かなり違っているのがわかるだろうか。

銀杏の葉の葉脈の特徴は、扇の骨のようになっている(ただしほぼ平行走っている)、その骨が途中で二股に分れているところだ。



もともと原始的な陸上植物は葉を持たず、二又分枝する茎だけからできていたと考えられている。その後進化の過程で、植物はこの茎を細かく分かれさせながら組織の隙間を埋める変化をしていったとされている。この過程で生まれたのが葉だ。

このように、植物(正しくは維管束植物)は「分ける」という分化を進めて、根・茎・葉を作りながら進化してきたのだ。現在、植物の様々な形態が存在しているのは、この二又の変形のおかげなのだ。

だから、葉脈が平行に走り二又分枝している銀杏は、原始的な形状を保ったまま存在している貴重な植物、即ち現存する植物のご先祖様の存在なのだ。(生きている化石)

ちなみに銀杏は、「動物のように精子を持つ」植物としても有名だ。植物の起源的なポジションに位置するところから、最初は、動物と植物の区別はなかったのではないかという想像にもつながりそうだ。

もうすぐ黄色い葉っぱと強烈なおおいを放つ銀杏を目撃するだろう。前述した古代ロマンに思いを馳せて、より近づいて観察をしよう。